

【公報種別】特許法第17条の2の規定による補正の掲載

【部門区分】第3部門第3区分

【発行日】平成22年6月17日(2010.6.17)

【公開番号】特開2007-297631(P2007-297631A)

【公開日】平成19年11月15日(2007.11.15)

【年通号数】公開・登録公報2007-044

【出願番号】特願2007-122780(P2007-122780)

【国際特許分類】

C 08 J 3/12 (2006.01)

B 01 D 11/02 (2006.01)

B 01 J 20/26 (2006.01)

【F I】

C 08 J 3/12 Z

B 01 D 11/02 A

B 01 J 20/26 H

B 01 J 20/26 Z

【手続補正書】

【提出日】平成22年4月27日(2010.4.27)

【手続補正1】

【補正対象書類名】特許請求の範囲

【補正対象項目名】全文

【補正方法】変更

【補正の内容】

【特許請求の範囲】

【請求項1】

500 ppm未満の残留含有率で有機溶媒を含むことを特徴とする、ビーズポリマー。

【請求項2】

ビーズポリマーから有機溶媒を除去する方法であって、ビーズポリマーを水溶性カルボン酸の添加を伴う有機溶媒の蒸留に付すことを特徴とする方法。

【請求項3】

前記蒸留過程中に、水性相中の前記水溶性カルボン酸の濃度を10重量%を超えるように調整することを特徴とする、請求項2に記載の方法。

【請求項4】

前記蒸留過程中に、前記水溶性カルボン酸を一度に添加することを特徴とする、請求項2または3に記載の方法。

【請求項5】

前記水溶性カルボン酸の少なくとも一部分を前記蒸留の開始時に即座に最初の仕込み物として使用することを特徴とする、請求項2~4のいずれか一項に記載の方法。

【請求項6】

ギ酸、酢酸、プロピオン酸、酪酸、イソ酪酸、またはそれらの混合物を水溶性カルボン酸として使用することを特徴とする、請求項2~5のいずれか一項に記載の方法。

【請求項7】

前記ビーズポリマーを水性分散物の状態で蒸留に付すことを特徴とする、請求項2~6のいずれか一項に記載の方法。

【請求項8】

20かつ1atmで液体であるモノカルボン酸を水溶性カルボン酸として使用することを特徴とする、請求項2~7のいずれか一項に記載の方法。